

2020 年度

環境活動レポート



太陽の恵み
人にやさしく地球にやさしく

発行日：2021年06月30日

1 組織の概要	P. 3
2 対象範囲	P. 3
3 環境経営方針	P. 4
4 環境管理実施体制	P. 5
5 環境目標	P. 6
6 環境活動計画	P. 6 - 7
7 環境目標の実績	P. 7 - 8
8 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組	P. 9
9 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	P. 10 - 11
10 代表者による全体評価と見直しの結果	P. 11
11 その他環境経営活動報告	P. 12 - 15



1 組織の概要

事業所名及び代表者名

太陽油脂株式会社
代表取締役社長 中山 悟

所在地

神奈川県横浜市神奈川区守屋町 2-7

環境管理責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者：施設グループ GL 金井 一徳
TEL：045-441-4962 FAX：045-441-9671

事業の概要

①事業内容	加工油脂部門：ショートニング、マーガリン類、その他食用加工油脂および油脂加工製品の製造販売
	石けん・化粧品部門：家庭用・業務用石けん、シャンプー、ハミガキ類、化粧品の製造販売
	飼料部門：飼料用脂肪酸カルシウムの製造販売
②事業規模	生産量：70,723 t / 年（食品 68,714 t / 年）
	従業員数：312 人（2021/4 現在、従業員 230 名+構内協力会社人数 82 名）
	延べ床面積：14,638.46㎡

2 対象範囲

認証・登録範囲（2009年認証取得）

加工油脂部門：ショートニング、マーガリン類、その他食用加工油脂および油脂加工製品の製造販売
石けん・化粧品部門：家庭用・業務用石けん、シャンプー、ハミガキ類、化粧品の製造販売
飼料部門：飼料用脂肪酸カルシウムの販売（2021 年度登録）

レポートの対象期間及び発行日

対象期間：2020 年 04 月 01 日～2021 年 03 月 31 日
発行日：2021 年 06 月 30 日



3 環境経営方針

一滴の油から、やさしさを広げる。「やさしさ」誰もが持つこの気持ちを、私たちははぐくみ、届けてきました。何気ない日常がほほえみでつつまれるように、私たちは人を想い、自然を想う。生活が大きく変わり、不安を抱える今だから、もう一度あなたと共にやさしさを考えたい。100年後も、その先も、やさしさでつながる未来を目指して、環境経営方針を掲げます。

A-KE002-07-0
改訂日 2020年08月20日

環 境 経 営 方 針

太陽油脂は、「太陽の恵み 人にやさしく地球にやさしく」と掲げた企業理念のもと、誠実をモットーに、確かな技術とモノづくり精神に裏付けられた、人と、地球にやさしい、安心・安全な製品の提供と各種の経営活動を通じて、心豊かで健康的な暮らしと社会・自然の持続可能な発展に貢献するため以下の環境経営方針を定めます。

1. 環境、社会との共生に視点をおいた企業活動
 - 1-1、太陽油脂は重要な社会的課題・環境問題に真摯に対応する経営の実践を通じて社会的責任を果たしていきます。
 - 1-2、太陽油脂は「人、社会そして環境への貢献」を考えた具体的な経営活動・事業活動を積極的に展開していきます。
2. 人と環境に優しい製品の提供
 - 2-1、太陽油脂は、「人と、地球にやさしい」に拘った食用油脂製品と石けん製品を通じて、お客様に豊かで「安心・安全な生活」とともに「環境にやさしい生活」をも提供していきます。
 - 2-2、太陽油脂は、原料調達・生産から製品使用までの企業活動のあらゆる段階での環境への取り組みにおいて、環境関連法規、自主ルール等を順守しつつ「省資源・省エネルギー」「排水・廃棄物削減、リサイクル」等を継続改善していきます。
 - 2-3、太陽油脂は、「食品廃棄物の発生抑制、再生利用」等による食品資源の有効利用を推進していきます。

太陽油脂は、この環境経営方針の全従業員への周知徹底を行い全員参加による環境、社会との調和を目指した企業活動を推進していきます。

2020年08月20日
 太陽油脂株式会社
 代表取締役社長 中山 悟



4 環境管理実施体制



実施体制役割説明

代表者（社長）：環境経営システムの構築・運用に必要な経営諸資源を準備する
環境経営に関する、基本理念、長期戦略及び基本方針等に基づき、環境方針を定める
環境経営システムの構築・運用に関する情報を収集し、環境経営システムの見直しを行う

環境管理責任者：環境負荷と環境への取組状況の把握と評価を行い、結果を社長に報告する
環境関連法規等の取りまとめを行い、結果を社長に報告する
環境目標及び環境活動計画の策定を行い、社長の承認を得る
各部門（部署）の「環境活動計画・実施状況・評価表」を承認し、活動の推進を図る

EA21事務局：環境管理責任者を補佐し、全社環境関連データの集計及び管理保管を行う
全社の環境経営活動の運用状況を把握し円滑かつ効率的な活動となるよう総合調整を行う

PR委員会：企業情報及びリクルート・CSR・SDGs・プロモーション等の活動において、一貫性を持った外部発信力を高め、企業ブランド・商品ブランド認知及び社会価値の向上を図るための検討・決定機関として活動する。

各部門長（各部署長）：部門（部署）の環境経営システムの構築・運用の責任者としてその任に当たる
部門（部署）の従事者に対して、環境経営システムに関する教育・訓練を行う
自部門（部署）の「環境活動計画・実施状況・評価表」を作成し、推進する

環境活動推進委員：部門（部署）長を補佐し部門（部署）の環境経営システムの事務局として事務手続き等の実務を遂行する

全従業者：部門（部署）の推進委員を補佐し部門（部署）の環境経営システムの事務手続き等の実務を遂行する
部門（部署）の環境経営システムを理解し食品リサイクル及び環境問題を継続的に改善する活動を行う

5 環境目標(2020年度設置)

2017年度～2019年度までの実績を踏まえ、2020年度～2022年度の環境目標は以下の通りです。
(尚、2019年度の二酸化炭素排出係数(北電)は0.542(kg-CO2/kwh)を使用)

(年度：4月～3月 以下同じ)

製品生産量当たり	基準年度実績 2019年度	基準年度比 2020年度目標	基準年度比 2021年度目標	基準年度比 2022年度目標
二酸化炭素排出量 (kg-CO2/t)	225.18	99.38%	96.78%	94.36%
産業廃棄物排出量 (t/t)	0.0340	99.78%	99.30%	99.17%
食品廃棄物の発生抑制 (t/t)	0.0253	101.96%	101.88%	99.14%
食品リサイクル リサイクル率(%)	97.16%	97%以上	97%以上	97%以上
排水量 (m3/t)	2.81	99.78%	99.30%	99.17%
化学物質使用量 (kg/t)	0.0426	99.78%	99.30%	99.17%
グリーン購入 (作業着、事務用品、文具 等の対象品の購入実施率)	93.69%	94%以上	95%以上	95%以上
環境配慮設計の要素品の比率 (石けん・化粧品事業)	97%	97%以上	97%以上	97%以上
地域とのコミュニケーション (石けん学習会など)	77回/年 1,840名/年	900人/年	1,800人/年	2,000人/年

6 環境活動計画(2020年度)

環境活動計画		取組み内容
二酸化炭素排出量削減 <北電：排出係数 0.542kg-CO2/kWh> 2019年度比 99.38%以下	電気使用量 原単位削減 2019年度比：99.80%以下	①工程の時短・作業効率の改善を行い生産性を上げる。 ②事務所用蛍光灯及び屋外灯を計画的にLED照明に更新する。 ③全社節電対策(昼休み部分消灯等)6月～10月。クールビズの実施。 ④空調温度、夏(6月～9月)27～28℃、冬(12月～3月)20～22℃の徹底。 ⑤不適合品の発生を削減し生産性を向上し原単位改善につなげる。 ⑥故障・老朽事務用蛍光灯及び屋外灯の更新時にLED照明器具にする。
	都市ガス使用量 原単位削減 2019年度比：95.0%以下	①ボイラー運転台数制御の見直し。 ②スチームサイクロン(乾き蒸気化)の設定変更し効率を上げる。 ③工程の加熱条件を見直し過剰加熱を修正する。 ④蒸気トラップ、漏れ補修、保温強化しエネルギーロスを低減する。 ⑤工程の時短改善を行い生産性を上げる。 ⑥新脱臭機を熱効率よい設備設計し建設する。
産業廃棄物 総廃出量削減 2019年度比 99.78%	一般廃棄物排出量 原単位削減 2019年度比：99.0%以下	①一般廃棄物の分別徹底で単純焼却ごみを削減する。 ②紙の使用量削減(縮小コピーや両面コピー実施、FAXのメール送信化) ③ゴミの持ち帰り(購入弁当など)
	廃白土量削減 2019年度基準に 月188.29kg/t以下	①品目を選定し投入白土減を推進 ②小集団活動取組みにて廃白土量を削減する。 ③小集団活動取組みにて不適合品を削減する。 (廃油、廃脂肪酸量削減)
食品廃棄物発生抑制 2019年度比 98.0%	食品廃棄物 発生量削減 2019年度比：98.0%以下	①顧客コミュニケーション、品種統合を行う。 ②賞味期限切れ製品を削減する(販売計画に見合う適正量生産計画)。 ③小集団活動取組みにて不適合品を削減する(廃油、廃脂肪酸量削減)。
	食品リサイクル率 97%以上	①再資源化率を監視し、食品リサイクル率97%以上を継続維持する。 ②不適合品発生を抑制する(生産計画、オペミス削減)

環境活動計画		取組み内容
総排水量削減 2019年度比 99.78%	水使用量 原単位削減 2019年度比：99.78%以上	①冷却水の循環利用 ②洗浄方法の見直しや洗浄水の適正使用により水使用量を削減する。(過剰量を削減) ③冷却水の有効利用(再利用)
化学物質使用量削減 2019年度比 99.78%以下	化学物質使用量原単位 2019年度比：99.78%以下	①使用量の適正管理実施。 ②触媒使用量の削減、リサイクルの実施。
グリーン購入推進	グリーン購入実施率 94%以上	①グリーン購入対象品リストに従って、事務用品・文具を購入する。 ②購入部署はリストにある備品購入へ誘導する。 ※94%以上に目標見直し
環境配慮設計	環境配慮設計 の要素品の比率 97%以上維持	石けん化粧品事業 ①化学物質を使用せず石鹼をベースにした商品開発。 ②石けん化粧品の自社製品については、RSPO認証(パーム油)、 FSC森林認証、100%の製品設定に切替えていく。
地域とのコミュニケーション	地域とのコミュニケーション 900人以上/年	①工場見学会、手作り石けん教室、環境講演会を開催する。 ②地域清掃活動の継続実施(本社工場～入江橋周辺) ③コロナ禍対応として、Webによる教育会設置を行う。

7 環境目標の実績

① 二酸化炭素排出量原単位：kg-CO2/t

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
年度目標(%) (数値以下)	—	99.38	96.78	94.36	
年度実績(%)：2019比	—	97.94	—	—	
評価	基準	○達成	—	—	(目標以下○)
CO2排出量(t)	15,783	15,598	—	—	

② 総産業廃棄物量原単位：t/t

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
年度目標(%) (数値以下)	—	99.78	99.30	99.17	
年度実績(%)：2019比	—	99.12	—	—	
評価	基準	○達成	—	—	(目標以下○)

③ 食品廃棄物発生量原単位：t/t

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
年度目標(%) (数値以下)	—	101.96	101.88	99.14	
年度実績(%)：2019比	—	105.45	—	—	
評価	基準	×未達成	—	—	(目標以下○)

④ 食品リサイクル率（％）

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
年度目標（％）（数値以上）	—	97.0	97.0	97.0
年度実績（％）	97.16	97.23	—	—
評価	基準	○達成	—	—

（目標以上○）

<内訳>

①発生量（t）	1,868.9	⑤減量量（t）	0.0
②発生抑制量（t）	0.0	⑥再生利用等以外の量（t）	0.0
③再生利用量（t）	833.6	⑦廃棄物としての処分量（t）	0.0
④熱回収量（t）	1,035.3	再生利用等の実施率（％）	97.23

⑤ 総排水量原単位：m³ / t

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
年度目標（％）（数値以上）	—	99.78	99.30	99.17
年度実績（％）	—	105.74	—	—
評価	基準	×未達成	—	—

（目標以下○）

⑥ 化学物質使用量原単位：kg / t

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
年度目標（％）（数値以下）	—	99.78	99.30	99.17
年度実績（％）	—	93.89	—	—
評価	基準	○達成	—	—

（目標以下○）

⑦ グリーン購入実施率（％）（作業着、事務用品、文具のグリーン購入実施率）

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
年度目標（％）（数値以下）	—	94.0	95.0	95.0
年度実績（％）	93.69	91.57	—	—
評価	—	×未達成	—	—

（目標以上○）

⑧ 環境配慮設計（石けん化粧品事業）：品/品・年

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
年度目標（％）（数値以上）	—	97.0	97.0	97.0
年度実績（％）	97.0	100.0	—	—
評価	基準	○達成	—	—

（目標以上○）

⑨ 地域とのコミュニケーション（石けん学習会など）：人/年

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
年度目標（人／年）（数値以上）	—	900	1,800	2,000
年度実績（人／年）	—	974	—	—
評価	1,748	○達成	—	—

（目標以上○）

〈評価方法〉
○：達成 目標値達成
△：あと一步 目標値に達していないが80%の変化がある
×：未達 目標値未達成



8 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組

環境活動計画		取組結果とその評価・＜次年度の取組＞
二酸化炭素 排出量削減 ＜北電：排出係数＞ 0.542kg-CO2/kWh 〔目標〕2019年度比：99.38% 〔結果〕2019年度比：97.94% （評価：○達成）	電気使用量 原単位削減 2019年度比：99.80%	目標（2019年度比：99.80%）⇒結果（97.7%）（2020年度評価：○達成） ＜次年度取組＞ ①小集団活動取組みにて不適合発生 の削減や製造条件の見直しで 過剰なエネルギー使用を削減する。 ②在宅勤務による電気使用削減を継続実施する。 ③設備の計画保全を実施し設備起因のロス を削減する。 ④「RE100」に向けた情報整理と導入計画を設置する。
	都市ガス使用量 原単位削減 2019年度比：95.0%	目標（2019年度比：95.0%）⇒結果（96.6%）（2020年度評価：×未達成） ＜次年度取組＞ ①設備改修に合わせ熱交換・熱の効率的な利用を備えた機能を導入する。 ②製造条件見直しにより、過剰な蒸気使用量を削減する。 ③不適合発生を削減し、再製造等で発生するエネルギー使用を削減する。
産業廃棄物排出量削減 〔目標〕2019年度比：99.78% 〔結果〕99.1% （評価：○達成）	一般廃棄物排出量 原単位削減 2019年度比：99.0%以下	目標（2019年度比：99.0%）⇒結果（89.1%）（2020年度評価：○達成） ＜次年度取組＞ ①資材・製品在庫の持ち方を見直し、販売計画に見合う管理にする。 ②在宅勤務の推進やWeb会議など電子情報利用で紙含む廃棄物減する。 ③ごみの分別状況を点検し、回収箱の表示強化・レイアウト変更を行う。
	廃白土量削減 2019年基準に 月188.29kg/t以下	目標（188.29kg/t以下⇒結果（186.85kg/t）（2020年度評価：○達成） ただし産業廃棄物総量は生産量増もあり120.69%で未達成 ＜次年度取組＞ ①廃白土吸着油の削減設備を設置する。 ②製造頻度の高い品目を主に色調管理し白土量削減を行う。
食品廃棄物 発生抑制 〔目標〕2019年度比：101.96% 〔結果〕105.45% （評価：×未達成）	食品廃棄物 発生量削減 2019年度比：101.96%	目標（2019年度比：101.96%）⇒結果（105.45%）（2020年度評価：×未達成） ＜次年度取組＞ ①資材・製品在庫の持ち方を見直し、販売計画に見合う管理にする。 ②油水分離回収設備導入し食品廃棄物を削減する。 ③製造条件を環境配慮設計のもと改定を進める。
	食品リサイクル率 97.00%以上	目標（97.00%）⇒結果（97.23%）（2020年度評価：○達成） ＜次年度取組＞ ①再資源化率の監視活動を継続実施する。
総排水量削減 〔目標〕2019年度比：99.78% 〔結果〕105.72% （評価：×未達成）	水使用量 原単位削減 2019年度比：99.78%	目標（2019年度比：98.78%）⇒結果（105.72%）（2020年度評価：×未達成） ＜次年度取組＞ ①洗浄制御を見直し、水の使用量を削減する（充填工場洗浄方法）。 ②排水冷却設備を増設し、工程での水冷却投入量を下げる。
化学物質 使用量削減 〔目標〕2019年度比：99.78% 〔結果〕95.05% （評価：○達成）	化学物質使用量 原単位 2019年度比：99.78%以下	目標（2019年度比：99.78%）⇒結果（95.05%）（2020年度評価：○達成） ＜次年度取組＞ ①使用量適正管理を継続実施する。 ②化学物質使用機器の更新など機能UPを行い使用量の縮小を図る。
グリーン 購入推進 〔目標〕94%以上 〔結果〕91.57% （評価：×未達成）	グリーン購入 実施率推進 2019年度比：94%以上	目標（2019年度比94%以上）⇒結果（91.57%）（2020年度評価：×未達成） ＜次年度取組＞ ①定期的に購入するグリーン購入品を特定しルール化する。 ②グリーン購入対象品をリスト化（明確化）すると共に運用手順書を周知する。
環境配慮設計 〔目標〕97%以上 〔結果〕100% （評価：○達成）	環境配慮設計 （97%以上） 石けん化粧品事業	目標（97%以上）⇒結果（100%）（2020年度評価：○達成） ＜次年度取組＞ ①石けん化粧品の自社製品はRSP0100%、FSC100%対応を継続する。 ②対象製品群を新規設定し改訂を行う。
地域とのコミュニケーション 〔目標〕900人/年 〔結果〕974人/年 （評価：○達成）	地域との コミュニケーション （900人/年）	目標（900人/年）⇒結果（974人/年）（2020年度評価：○達成） ＜次年度取組＞ ①工場見学会、手作り石けん教室のWeb方式導入を周知し開催頻度増を図る。 ②PR委員会発信の環境活動広報により石けん教室参加者増を図る。

〈評価について〉
○：達成 目標値達成
△：あと一步 取り組み開始されており、目標値に達していないが概ね（達成率80%程度）
削減或いは抑制効果が確認されている
×：未達成 目標値未達成（80%未満）

1）主要な取り組みの総括評価

地球温暖化対策となるエネルギー起源CO2排出量は、製造条件や工程の立上げ立下げ手順の見直し・標準化により原単位改善につながっています。設備の安定稼働となる保全活動、計画保全による早期対応も生産効率向上に寄与したと考えています。

食品廃棄物削減は、倉庫の管理強化で不適合在庫の処理を推進したことにより増加しています。2021年度は廃油処理方法を見直し設備を設置し再資源化することで削減を図っていきます。

水・排水量は増加しています。排水処理設備の排水温度上昇による排水処理能力低下を防止するため、夏期を主に冷却水を多く使用した背景があります。2021年度では水使用でない設備改善を行い、使用量を減少させることを計画しています。

エコアクション21環境活動にSDGsを連携させ、総合的な環境負荷削減を推進していきます。

9

環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

1）適用法令等の遵守状況の確認及び評価の結果

適用法令等	対象施設	遵守状況の確認及び評価の結果	遵守状況
特定工場における公害防止組織の整備に関する法律	全社	「公害防止統括者（同代理者）選任・解任届出書」、「大気関係公害防止管理者（同代理者）選任・解任届出書」、「水質関係公害防止管理者（同代理者）選任・解任届出書」	○
大気汚染防止法	ボイラー、ガスエンジン、悪臭	「ばい煙発生施設（使用、変更）届出書」排煙（N o xの許容限度）の規制基準	○
横浜市生活環境の保全等に関する条例（横浜市環境保全協定含む）		「指定事業所設置許可申請書」、「指定事業所に係る変更許可申請書」年2回N o x測定、定期報告 異常時の処置と対策	○
水質汚濁防止法	排水処理設備	「特定施設設置（使用、変更）届出書」、「特定施設使用等開始報告書」排水規制基準、水質測定、定期報告	○
横浜市生活環境の保全等に関する条例（横浜市環境保全協定含む）		公共用水域に排出される排水の規制基準 異常時の処置と対応	○
騒音規制法	圧縮機	基準遵守、工業専用地域の為対象外	○
振動規制法	全社	基準遵守、工業専用地域の為対象外	○
工場立地法	生産施設、緑地	生産施設、緑地の確保（屋上緑化推進）	○
消防法	屋内貯蔵所	「危険物貯蔵所設置許可申請書」「指定可燃物貯蔵・取扱開始届出書」	○
	指定可燃物（タンク）	年2回の消防用設備定期点検。	
	少量危険物（薬品庫）	「少量危険物貯蔵開始届出書」指定数量内の貯蔵、施設の点検、防災訓練強化	
浄化槽法	浄化槽	「浄化槽設置計画書」年1回の定期検査、年2回の清掃	○
海洋汚染防止法	全社	「油脂保管量報告」	○
横浜市福祉のまちづくり条例	建物、トイレ、スロープ等	「整備基準適合証」	○
横浜市駐車場条例	構内駐車場	「附置義務駐車施設（設置、変更）届出書」	○
特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律（P R T R法）	化学物質	「第一種指定化学物質の排出量及び移動量の届出書」	○
P C B廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法	コンデンサ	「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の保管及び処分状況等届出書（保管事業者用）」	○

適用法令等	対象施設	遵守状況の確認及び評価の結果	遵守状況
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	廃棄物置き場	「産業廃棄物管理票交付等状況報告書」マニフェスト管理 「産業廃棄物処理計画」廃棄物置き場での掲示済み	○
横浜市廃棄物等の減量化、資源化及び適正処理等に関する条例（規則）	全社	「産業廃棄物排出状況報告書」	○
高圧ガス保安法	冷凍設備	特定施設届出、規制基準値内、危害予防規定提出 危害予防規定届出、冷凍保安責任者を選任届出	○
改正フロン排出抑制法	全社	簡易点検（1回/3ヶ月以上）・有資格者による定期点検（7.5kw以上）	○
省エネ法（エネルギーの使用の合理化に関する法律）	全社	CO2換算で温室効果ガス排出算出 排出量の定期報告（省エネ法定期報告で代用）	○
温対法（地球温暖化対策の推進に関する法律）	全社	「エネルギー管理統括者／エネルギー管理企画推進者選任届出書」、「エネルギー管理者選任届出書」 「定期報告書」、「中長期計画書」（1％以上／年平均のエネルギー消費原単位低減努力）	○
容器包装リサイクル法	工場	再商品化義務、再商品化委託料金の算出、識別表示 「再商品化委託契約申込書」（（財）日本容器包装リサイクル協会）	○
食品リサイクル法	工場、倉庫	食品廃棄物の再生利用、削減計画、報告	○
労働安全衛生法	全社、分析部署	健康診断（特殊検診含む）、有機溶剤中毒予防規則の遵守…問題なし	○

2）違反、訴訟等の有無

環境関連法規への違反はありません。また、関係当局より違反の指摘及び訴訟は過去、3年間ありません。

私たちを取り巻くすべての課題に対して、ステークホルダーの皆さまとコミュニケーションを取りながら、CSR活動やSDGsへの取り組みを通して持続可能な未来の実現を目指していきます。

10 代表者による全体評価と見直しの結果

2020年度は、全員参加で実現してきたこれまでの成果を広く世に発信するようコーポレートサイトの刷新を行い、自他共に企業価値を感じられるトップスローガン「Public Relations 101」のもと、誰もが笑顔で暮らせる未来の創生に貢献していることを感じられるようにしてきました。

成果のひとつである環境負荷削減では、主目標となる二酸化炭素や産業廃棄物の削減は目標値達成となり評価できます。そして次年度は達成事項は継続、未達成事項は対策強化することとなりますが、各部門部署で実施している様々な取り組みを、個別で評価するのではなく、その結果が企業活動の価値向上のどの部分に貢献するのかを示せる統合したストーリーづくりが必要と感じています。CSR活動を中心にして、各活動のつながりを示すものを検討してください。



11 その他環境活動報告

2020年度はエコアクション21の環境活動とSDGs（持続可能な開発目標）との連携を確認するため、SDGsの社内教育を実施し、意識向上する取り組みを行いました。これにより自社の環境活動の重要性を理解し、更なる地域との連携強化を行いながら、企業理念「太陽の恵み 人にやさしく 地球にやさしく」のもと環境経営活動を活性化していきます。

太陽油脂は、持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

1) 地球温暖化対策、省エネルギー活動

●エコアクション21

環境省が策定した環境マネジメントシステムを認証登録します。環境経営実現の一活動として継続実施します（12年目）。二酸化炭素、廃棄物、排水などの環境負荷量を把握し、これらを削減する改善活動を継続的にいきます。

●エネルギー管理指定工場

省エネ法が1979年（昭和54年）に制定時から太陽油脂は、省エネルギー活動を盛んに行っており、熱交換設備、インバーター制御、ボイラ台数制御、コージェネレーション発電設備、蒸気改質装置導入など原単位の改善を継続実施してきました。これらはエコアクション21やSDGsの目標達成に向けた活動となり今後も強化していきます。



2) 自然環境保護活動

●石けん教室

太陽油脂は一般の個人の方や団体の方に向けて、石けん工場見学会を行っています。石けん製品をより身近に親しみながら、石けんの良さについて知っていただけるような取組みとして開催しています。

2020年度は、年初よりの新型コロナウイルス感染症の影響で、工場受入れの見学会は通年中止となりました。

それでも、感染状況の収まっているタイミングで、横浜エコスクール（YES）や横浜SDGsデザインセンターからの講座開催依頼もあり、下半期で23講座を出張講座として行うことが出来ました。（石けんの環境への影響や持続可能なパーム油について学ぶ機会をつくることで、エシカルな消費の大切さを伝えています）

内容

コロナ禍で工場見学を受け入れが出来ない為、出張講座での啓発活動

- ①実験（乳化の実験、振る石けん作り）、低学年のお子様には手でこねる石けん作りを体験していただき石けんの性質（汚れ落ち、環境への影響、使用のコツ）を伝える
- ②石けんから考えるSDGs、石けんの原料としても多く使用されるパーム油の適正な使用に関するRSPOへの取り組みを紹介

参加人数：合計974名：コロナ禍で開催減（前年1,748名）

23講座（内YES 9講座＝515名）

リモート工場見学 2回実施

※リモートによる「石けん教室」環境を新規設置したので、次年度はリモートも含め石けん教室をより多く・広く実施していきます。



●持続可能なパーム油の調達（RSPO） ※RSPO（持続可能なパーム油のための円卓会議）普及（Roundtable on Sustainable Palm Oil）

パームの生産に関係する環境や社会、経済が長期的に維持できるような「持続可能性（サステナビリティ）」のあるパーム油の生産と使用を推進することを目的とした国際的な非営利組織に2011年3月より正会員として加盟（正会員、国内11社目）。

現在に至るまで、RSPOの原料の購入と、その重要性をアピールしてきました。

RSPOの認知度が高まるに従いお客様からの問い合わせが増えており、これらの対応含め、各所で説明会を開催しています。今後もRSPOの重要性を踏まえ、企業理念の「太陽の恵み 人にやさしく 地球にやさしく」を意識した製品を提供していきます。

太陽油脂の進捗状況はwww.rspo.orgを参照ください（英文サイト）。（太陽油脂情報は、<https://www.rspo.org/members/779/taiyo-yushi-corp>にて）



●環境配慮設計商品の開発

最近の環境変化に伴い、日常使用している洗浄剤や化粧品で、地球環境に配慮し、肌に優しい商品へのニーズが高くなっています。石けん・化粧品開発グループでは、環境にやさしい石けん・化粧品製品を毎年開発しております。

本年度は偏光パール配合で透明感のある手もとにする「バックスナチュロントーンアップハンドクリーム」と、発売から15年経過した「バックスオリー」をリニューアルし、「PaxOlieシリーズ」を発売しました。

本年度に開発した商品は、全て下記の『環境配慮設計の基準』を満たし、オーガニック認証としては、『JONA認証準会員』を製造工場と一部製品で更新継続しております。

環境配慮設計の基準

- ①PRT指定物質、医薬部外品の表示指定成分の有害性の指摘のある合成化学物質は使用せず、石けんなどの生分解性の良い原料を使用する。
- ②商品は常圧以下かつ約100℃以下の温度で製造する。
- ③段ボールなどリサイクルできる素材を採用し、廃棄時に有害物質を排出するプラスチック素材は使用しない。

3) 人の生活環境改善活動

●SDGsに関する教育会開催

SDGs（持続可能な開発目標）の17のゴールについて全従業員を対象に教育会を実施しました。教育会では、SDGsが設定された背景（歴史）や最近の横浜市や他企業の取り組みを紹介、太陽油脂が行っている様々な活動がSDGsのどのゴールに該当するかを示し、全社共有することで、今後の活動強化につながるよう教育を行いました。

1回目（6月）：48名 2回目（7月）：73名 3回目（7月）：33名 計154名参加

教育内容

・SDGsについて

2030年までに世界全体で抱える問題を解決し、明るい未来を作るための国際目標17のゴールが設定されており「人、豊かさ、地球、平和、パートナーシップ」の分野があり社会、経済、環境の3つの要素を調和させることが必要

・SDGsの歴史

環境をめぐる世界の主な動きを国連の環境問題の取り組みの経緯と合わせ説明
2015年のパリ協定を受け、日本ではSDGs推進本部が設置され、省庁や市町村、民間企業に至るまで、様々な取り組みが行われている

・SDGs他社事例紹介

ジャパンSDGsアワード受賞企業の取り組みを紹介
横浜市の取り組み事例を紹介

・太陽油脂の環境活動とSDGsとの関連性を確認

企業理念「太陽の恵み 人にやさしく 地球にやさしく」のもと、2009年より活動が続けているエコアクション21の活動内容とSDGsゴールとの関係を確認。中長期計画で、「RSPO強化」・「FSC製品化」・「プラスチック使用量減」・「再エネ切替」、「外部連携」や「広報活動」が重要な取り組みであることを共有した。

●横浜市SDGs 認証について

横浜市のSDGs 認証制度の審査を2020年に受けました。環境活動の実績や事業の取り組み姿勢を確認いただき、「Y-SDGs」の上位（Superior）を取得しました。SDGsの達成に向け、さらなる活動を行っていきます。



●横浜市環境活動賞について

横浜市内では、地域で様々な環境活動を積極的に行っている市民（個人・団体）、企業、児童・生徒・学生を対象に、それぞれの環境活動を表彰する制度があります。第27回、横浜市環境活動賞で、太陽油脂は団体実践賞を受賞しました。

●地域への貢献

〈清掃活動〉

地域貢献活動として、太陽油脂から国道までの道路周辺を毎週清掃しています。



= 清掃範囲（正門から国道まで）

〈町内会への協力〉

毎年夏に行われる町内会イベント向けに協賛品を寄付、コロナ禍でイベントは中止となりましたが、地域活性化に貢献できればとの思いで、例年通り、「ボックスナチュロンクリームソーブ」3ケースと、「ボックスナチュロンキッチンスポンジ」2ケースを寄付しました。（近隣の3箇所の町内会）

〈横浜FCとECOパートナー（横浜FCはJリーグで初めてISO14001を取得）〉

横浜FCが主催する環境意識向上イベントで、石けんづくり体験のワークショップを提供。選手が汗を流すお風呂場に液体石けんの製品を設置、ユニフォームの洗濯には粉石けんを提供。石けん製品の生分解性など、環境配慮を通じスポーツを支援しています。



2020年4月、コロナ禍や災害対応時に敬意を示すため消防署職員の方々用に、手の洗浄剤としてハンドソープ10c/sを寄付。横浜市消防局長より感謝状を頂戴した。（2020年7月8日）



横浜市消防局長と中山社長



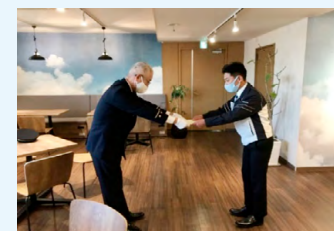
神奈川消防署にて記念写真撮影



神奈川消防署にて記念写真撮影

令和2年度横浜市消防局功労事業者表彰（2021/01/07）

出初式にて表彰される予定だったが、コロナ禍のため太陽油脂内「青空カフェ」にて感謝状を頂戴した。



横浜市消防局長と中山社長（青空カフェにて）



◎会社沿革

- 1919年（大正8年） 東京搾油株式会社として発足（主として南洋特産コブラの搾油）
- 1936年（昭和11年） 南洋貿易株式会社と合併
- 1939年（昭和14年） 石けんの生産開始
- 1947年（昭和22年） 太陽油脂株式会社として創立
- 1948年（昭和23年） 石けんシャンプーの商標を「ボックス」に決定
- 1950年（昭和25年） 我が国初のショートニング製造実用化と販売開始
- 1970年（昭和45年） ペストリー・パイ用シートマーガリン販売開始
- 1971年（昭和46年） 鐘淵化学工業株式会社（現 株式会社カネカ）と業務提携
- 1972年（昭和47年） ホイップクリーム用シリーズ販売開始
- 1973年（昭和48年） コーヒークリーム用シリーズ販売開始
- 1982年（昭和57年） CI（企業理念）導入、社章（日の出マーク）制定
- 1985年（昭和60年） フィリング・トッピング用「メルファー」シリーズ販売開始
関係会社「太陽サービス株式会社」創立
- 1989年（平成元年） 「ボックスナチュロン」石けんシリーズ販売開始
- 2003年（平成15年） HACCP認証取得（加工油脂）
- 2004年（平成16年） ISO9001:2000（食用加工油脂）取得
- 2006年（平成18年） 「ボックスオーリー」石けんシリーズ販売開始
- 2008年（平成20年） 「ボックスベビー」石けんシリーズ販売開始
- 2009年（平成21年） エコアクション21 認証・登録
- 2011年（平成23年） RSPO加入
- 2013年（平成25年） FSSC22000（食用加工油脂）取得
SC認証（RSPO）取得
基礎化粧品シリーズ「素肌レシピ」オーガニック・コスメ販売開始
- 2014年（平成26年） ISO22716（化粧品GMP）取得（石けん・化粧品）
- 2017年（平成29年） 創立70周年を迎える
- 2018年（平成30年） ISO9001:2008（石けん・化粧品）取得
- 2019年（令和元年） 創業100周年を迎える



太陽油脂株式会社